

---

[成果情報名] 「秋王」におけるわい性台木「FDR-1」の中間台木利用による苗木育成技術  
[要約] 「秋王」の「FDR-1」中間台木苗木は、3月に「FDR-1」休眠枝を接ぎ木し、6月に伸長した新梢を中間台木長20～30cmで切除し、「秋王」休眠枝を接ぎ木することで接ぎ木後1年で育成できる。「FDR-1」中間台木苗木の成苗率は慣行台木と同等である。

[キーワード] カキ、「秋王」、わい性台木、「FDR-1」、中間台木

[担当部署] 苗木・花き部；苗木チーム

[連絡先] 0943-72-2243

[対象項目] 果樹

[専門項目] 栽培

[成果分類] 新技術

---

#### [背景・ねらい]

カキは九州北部豪雨で被災した朝倉地域の主力品目の一つであり、産地復興を図るためには生産効率が高い栽培技術による産地再編が必要である。本県育成の「秋王」は、品質の高さから単価は高いものの、結実が不安定な問題がある。本県で選抜したカキわい性台木系統「FDR-1」は、わい化効果とともに、結実率向上などの優れた特性が認められ、省力・収量増加が期待される台木である。

しかし、「FDR-1」は挿し木等栄養繁殖が困難であり、わい性台木苗木の効率的な生産に向け、苗木生産者が取り組み可能な技術が必要である。「FDR-1」は、中間台木とした場合にもその効果が期待されており、慣行苗木同様に接ぎ木後1年で育成する技術を確立する。

#### [成果の内容・特徴]

1. 「秋王」の「FDR-1」中間台木苗木は、3月に「FDR-1」休眠枝を穂木としてヤマガキ台木に接ぎ木し、6月に伸長した新梢に「秋王」休眠枝を接ぎ木することで、慣行苗同様に接ぎ木後1年で育成できる（図1）。
2. ヤマガキ台木に「FDR-1」を接ぎ木した苗木は、5月末に苗丈60cm程度となり、中間台木長20～30cmを確保でき、接ぎ木可能となる（データ略）。
3. 「FDR-1」の活着率は、根系台木のヤマガキとは89%、穂木の「秋王」とは96%以上と高い（表1）。
4. 「FDR-1」中間台木苗木は、慣行苗木（中間台木なし）と比較して基部径が細いものの、成苗率には差がみられない（表1）。

#### [成果の活用面・留意点]

1. カキわい性台木「FDR-1」は、福岡県農林業総合試験場でヤマガキ台木から選抜した系統である。
2. 「FDR-1」に「秋王」を接ぎ木した後は、中間台木から発生する脇芽を切除し、苗木の伸長促進を図る。

[具体的データ]

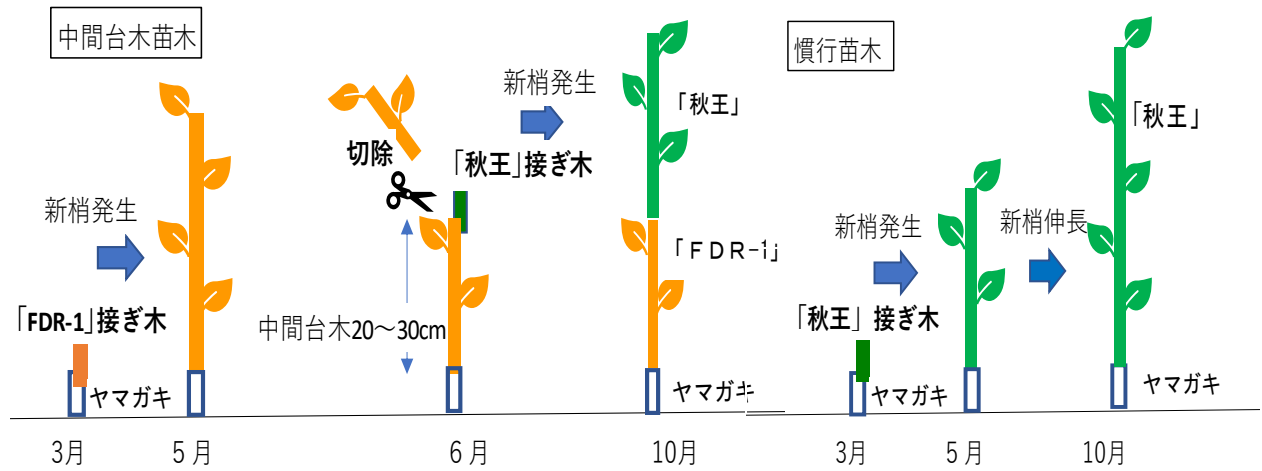


図1 「秋王」における「FDR-1」中間台木苗木の育成方法

表1 「秋王」の苗木育成における「FDR-1」中間台木利用による活着率および生育 (令和3年)

| 中間台木    | 中間台木長 | 活着率 <sup>1</sup> |     |    | 苗木生育 (11月) |     |                  |
|---------|-------|------------------|-----|----|------------|-----|------------------|
|         |       | 3月               | 6月  | 計  | 基部径        | 苗丈  | 成苗率 <sup>2</sup> |
|         |       | %                | %   | %  | mm         | cm  | %                |
| 「FDR-1」 | 20cm  | 89               | 100 | 89 | 12.0 b     | 106 | 100              |
|         | 30cm  | 89               | 96  | 85 | 13.0 b     | 108 | 88               |
| なし(慣行)  | —     | 69               | —   | 69 | 18.3 a     | 135 | 94               |
|         |       | *                | ns  |    | *          | ns  | ns               |

注) 1. 3月はヤマガキに対する「FDR-1」、「秋王」、6月は「FDR-1」に対する「秋王」の接ぎ木活着率、計は最終的に活着した割合

2. 活着した苗木における接ぎ木当年11月の苗丈90cm以上の苗木の割合

3. 統計処理により\*は5%水準で有意差あり、異符号間で有意差あり

[その他]

研究課題名: カキわい性台木利用技術の確立

予算区分: 県特(九州北部豪雨被災産地復興支援事業)、経常

研究期間: 令和3年度(令和元年~5年)

研究担当者: 田中莉依、四宮 亮、松本和紀、井樋昭宏